

# 日本語表現法 (Japanese Technical Writing)

専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当
教養	必修	1年	2	講義	一色誠子

## 【授業の概要】

本授業では、論理的な思考に基づく論理的な日本語表現（記述力）を高めることを目標とする。まず、自己の日本語力・日本語表現能力を確認・自覚することから始め、論理力を高めるための準備段階として、文の構成や組み立ての分析・読解を実施し、論理的な文章を書くための基礎的な事項を理解することを求める。そして、小論文の作成と添削を繰り返すことによって論理的な日本語表現法を身に付ける。

## 【学修の進め方】

論理的な文章を書くための基礎的な事項を、講義と文章の読解と分析作業で進める。また、小論文作成によって実践応用していく。自学・自習の内容については、学習シートに毎時間用意し、実施状況を定期的にチェックをする。また、日本語の運用能力を確認するため「日本語検定」の受検を奨励する。なお、授業時には、国語辞書（電子辞書可）を携帯しておくこと。

【授業の概要】	【授業項目】	【内容】				
1回	授業の概要と進め方について 日本語・日本語表現能力診断	授業の概要と進め方について、シラバスを用いて説明する。その後、日本語・日本語表現能力診断を実施。				
2回	要約力を鍛える	新聞の「論説」「社説」を読み、文の組み立てや構成を分析する。正確に文章を読み解く方法をつかむ。				
3回	小論文とは（1）	「作文と小論文の違い」「小論文作成のポイント」「課題の読み取り」「情報の集め方」を学習する。				
4回	小論文とは（2）	「効果的な論証の方法」「客観的な材料の取り入れ方」を学習する。				
5回	事実と意見の書き分け（1）	「事実と意見の定義」とその書き分けを学習する。				
6回	事実と意見の書き分け（2） 小論文 意見文	論説文を読み、その文章に対して意見文を書く。書く前に、意見文を書くポイントについて説明をする。				
7回	文章の構成法（1） 段落とパラグラフ	文章を、意味のまとまりで区切ることを意識する。例文を正しく書き直す事で、確認していく。				
8回	文章の構成法（2） アウトラインの作り方	「明確なアウトラインを作るための三段階」を学習する。返却された小論文をもとに自己点検をする。				
9回	小論文 課題文	文章の構成法(1)(2)を意識して文章を作成する。				
10回	文の三原則（1） 正確な文章を書くには	主語と述語の関係を考える。例文の書き直しによって、正確な文章の構成を理解する。				
11回	小論文 意見文（時事問題）	先回の小論文を添削の上返却。その後、実作に移る。				
12回	文の三原則（2） 明快な文章を書くには	文中の語句と語句との関係や、句読点の打ち方について注目する。例文を直すことで確認していく。				
13回	小論文 意見文（時事問題）	先回の小論文を添削の上返却する。全体講評の後、実作に移る。				
14回	文の三原則（3） 簡潔な文章を書くには	一文の長さ、接続詞、指示語を意識して、例文を直していく。				
15回	学習事項の確認テスト	学習事項を確認するためのテストを実施する。				
16回	まとめ	小論文4回目と小テストを返却する。本年度の授業のまとめをする。				
【到達目標】	文章の構成や組み立てを意識して文章を作成すること、実作と添削の中で各自が文章作成にあたっての自己の課題点を見つけそれを解決することを目標とする。					
【徳山高専学習・教育目標】	A 2	【JABEE基準 1(1)】 f				
【評価法】	小論文 80%、小論文準備シート 10%、確認テスト 10% で総合評価する。 最終評価 = (小論文 + + + ) / 4 + 小論文準備シート + 確認テスト 小論文の評価は、A+(90) A(85) A-(80) B+(75) B(70) B-(65) C+(60) C(55) とする。					
【テキスト】	テキストは用いない。「学習シート」「小論文（添削済み）」をファイルに綴じ込むことで、一冊のテキストになるようにしている。					
【関連科目】	日本語コミュニケーション（本科4年生） 国語総合Ⅱ（本科3年生）					
【成績欄】	前期中間試験 【 】	前期末試験 【 】	前期成績 【 】	後期中間試験 【 】	後期末試験 【 】	学年末成績 【 】